

# 坊ヶ跡遺跡2次

— 西都土地区画整理事業に伴う坊ヶ跡遺跡2次調査報告書 —

2008年

財団法人浜松市文化振興財団

## 例 言

- 1 本書は、静岡県浜松市西区西鴨江町および志都呂町における浜松市西都土地地区画整理事業に先立ち実施した、坊ヶ跡（ぼうがいと）遺跡の調査報告書である。坊ヶ跡遺跡は、2001年から2002年にかけて、本格的な調査が実施されていることから、今回の調査は2次調査とした。
- 2 発掘調査（整理作業）は浜松市西都土地地区画整理組合の委託により、浜松市教育委員会の指導（浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当が補助執行）のもと、財団法人浜松市文化振興財団が実施した。調査担当は、安藤憲（浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当）である。
- 3 調査期間 現地調査 2008年 1月 10日～同年 1月25日  
整理・報告作業 2008年 6月 24日～同年12月25日
- 4 調査面積 約607㎡
- 5 本書の執筆は安藤憲が担当した。
- 6 調査の記録、出土遺物は浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当が保管している。

## 本文目次

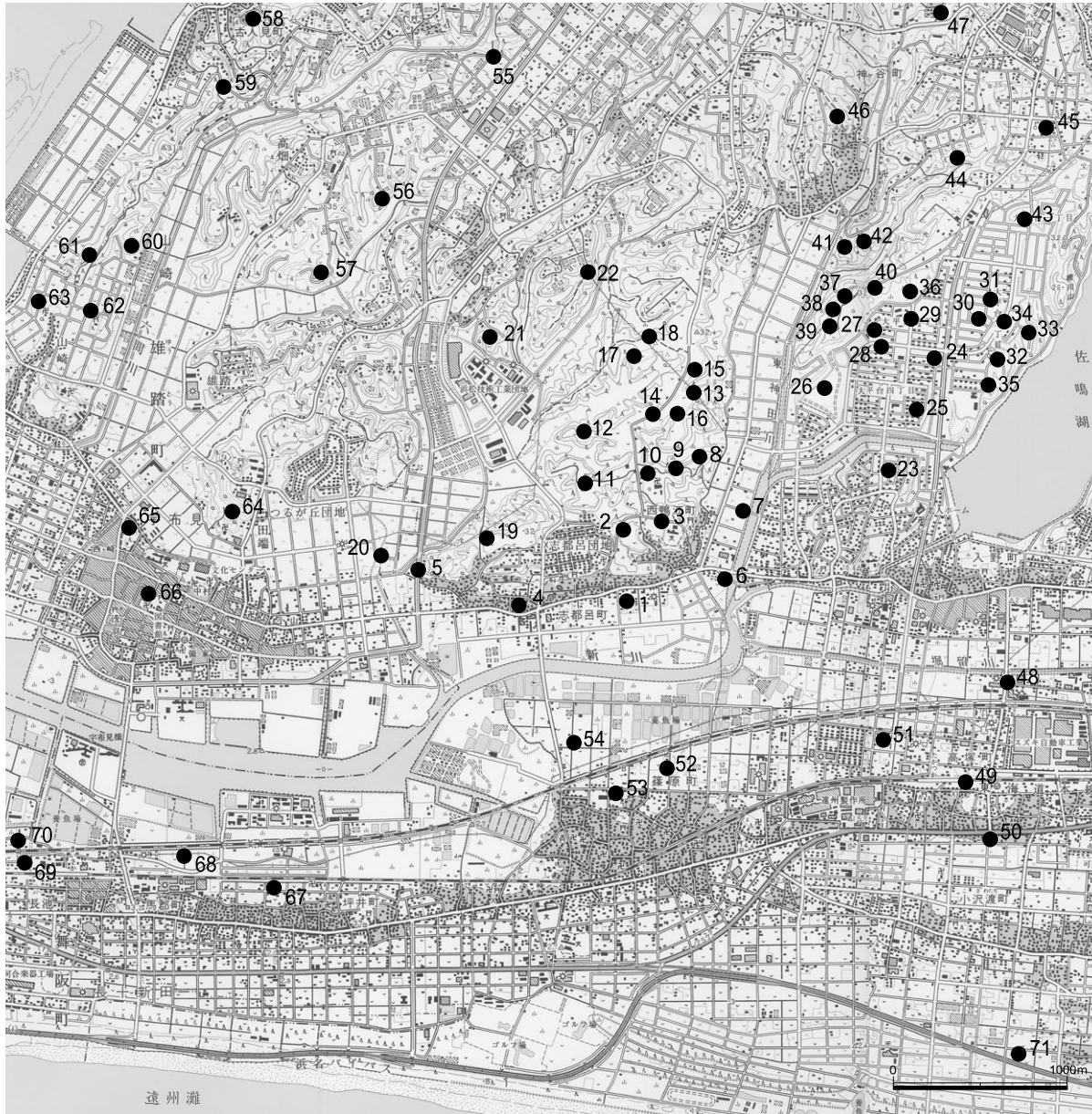
1 遺跡の環境	2
2 調査に至る経緯	5
3 調査経過	5
4 検出遺構	7
5 出土遺物	11
6 まとめ	11

## 挿 図

第1図 坊ヶ跡遺跡周辺遺跡分布図	1
第2図 区画整理用地内遺跡分布図	3
第3図 発掘調査区位置図	4
第4図 調査区（A区）全体図	6
第5図 調査区（B区）全体図	7
第6図 SB09・39実測図	8
第7図 SB40・126実測図	9
第8図 出土遺物実測図	10

## 図 版

写真図版 1	1：発掘完了A区北側（北西から）	2：発掘完了A区南側（南東から）
写真図版 2	1：発掘完了A区東側（南西から）	2：発掘完了B区全景（北西から）
写真図版 3	1：S B 39（西から）	2：S B 126（北西から）
写真図版 4	1：出土遺物	2：出土遺物



1	東前遺跡	古墳・奈良	25	大平北Ⅱ遺跡	古墳(後)・鎌倉	49	高塚遺跡	奈良～中世
2	坊ヶ跡遺跡	弥生～奈良	26	天の峰遺跡	弥生(後)・鎌倉	50	高塚町村中遺跡	古墳～古代
3	中平遺跡	弥生～奈良	27	村前山遺跡	平安(初)	51	大鳥遺跡	古代
4	中脇遺跡	奈良	28	村前山東遺跡	古墳(後)・平安(初)	52	上幸遺跡	古代～中世
5	西脇遺跡	弥生(後)～古墳(前)	29	前山遺跡	縄文(後)～鎌倉	53	篠原町仲村遺跡	古代～中世
6	角江遺跡	弥生(中)～奈良	30	作原遺跡	古墳(後)	54	中田尻遺跡	弥生(中)～古代
7	町田遺跡	縄文・中世	31	明善遺跡	縄文(中)	55	長者平遺跡	縄文(後・晩)
8	カヤノ遺跡	古墳～奈良	32	浦前Ⅰ・Ⅱ遺跡	古墳(後)・鎌倉	56	相ヶ谷遺跡	縄文
9	能野東遺跡	古代・中世	33	浦前Ⅲ遺跡	古墳(後)・鎌倉	57	大尻遺跡	古墳
10	花学院境内遺跡	平安	34	浦前Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ遺跡	古墳(後)	58	上ノ平遺跡	縄文・古墳
11	王子遺跡	縄文・古代	35	浦前Ⅶ遺跡	古墳(後)	59	古人見町中ノ平遺跡	古墳
12	ノリコ遺跡	縄文・古代	36	神ヶ谷町向山遺跡	縄文	60	浅間山古墳	古墳(後)
13	下山Ⅰ遺跡	古墳	37	苗引Ⅰ遺跡	古代	61	大ワゴ遺跡	古墳～中世
14	下山Ⅱ遺跡	古墳	38	苗引Ⅱ遺跡	古代	62	中薄遺跡	弥生(後)・古墳
15	下山Ⅲ遺跡	弥生・古墳	39	苗引Ⅲ遺跡	弥生	63	山崎遺跡	奈良～鎌倉
16	下山Ⅳ遺跡	古代・中世	40	苗引Ⅳ遺跡	古代	64	西之谷公園内古墳	古墳(後)
17	大畑遺跡	旧石器・奈良・中世	41	大野遺跡	弥生	65	白山神社古墳	古墳(後)
18	大畑Ⅱ遺跡	古代・中世	42	安行平遺跡	縄文	66	九郎平屋敷古墳	古墳(後)
19	北平遺跡	古墳～中世	43	根川遺跡	縄文・古墳	67	柳ノ内遺跡	古墳(末)～奈良
20	鹿小路遺跡	弥生(後)・古墳(前)	44	神ヶ谷町東遺跡	縄文	68	北浦遺跡	古代～中世
21	辻松Ⅱ遺跡	古墳	45	東平遺跡	弥生(後)	69	大山Ⅰ遺跡	弥生(中)
22	八丁ヶ谷遺跡	縄文	46	神ヶ谷町中平遺跡	奈良	70	大山Ⅱ遺跡	奈良
23	大平遺跡	古墳(前・後)	47	神ヶ谷町山の神遺跡	縄文(後)	71	瓦塚遺跡	古代～中世
24	大平北Ⅰ遺跡	縄文・古墳(後)・鎌倉	48	浜地遺跡	古墳			

第1図 坊ヶ跡遺跡周辺遺跡分布図

## 1 遺跡の環境

**地理的環境** 坊ヶ跡遺跡は、三方原台地の南西端、浜松市西鴨江町坊ヶ跡（ぼうがいと）に位置する。遺跡が立地する台地の直下には、西鴨江町および志都呂町の集落があり、集落に沿って東西にはしる道路は雄踏街道と通称されている。

静岡県西部に位置する三方原台地は、浜北市堀谷付近を基点とする洪積台地である。台地南部には、侵食によって複雑に入り組んだ谷が発達し、多くの遺跡が確認されている。坊ヶ跡遺跡もこの侵食谷によって樹枝上になった台地の一角を占め、海岸平野を見下ろすように立地している。

一方、台地下の平野は海岸まで3～4 kmの幅で、微高地と低湿地が海岸線と平行に交互に並んでおり、これまで確認されている多くの遺跡は、比較的安定した地盤である微高地に位置している。低湿地の部分は、現在は埋め立てられて市街化しているが、本来はきわめて水はけの悪い場所で、水田などに利用されることが多かった。

**歴史的環境 縄文時代** 西鴨江・志都呂の周辺では、佐鳴湖西岸の前山遺跡や大平遺跡、大平北遺跡、神ヶ谷町山の神遺跡などが知られる。また、近年、東前遺跡や角江遺跡など、台地下の低湿地で縄文土器が検出される例が増えつつある。

**弥生時代** この地域に水田稲作が定着した中期から後期にかけて、台地直下の砂堤列上の角江遺跡では、墓域や水田などの遺構とともに、大量の土器や土製品、農耕具を中心とする多様な木製品、石器など膨大な遺物が見つまっている。そのほかに、3重の環濠をもつ伊場遺跡をはじめとする伊場遺跡群、東前遺跡、鹿小路遺跡などが知られる。また、台地上の中平遺跡では、方形周溝墓と竪穴住居跡が検出されている。しかし、終末期までに、これらは縮小あるいは廃絶されてしまった。

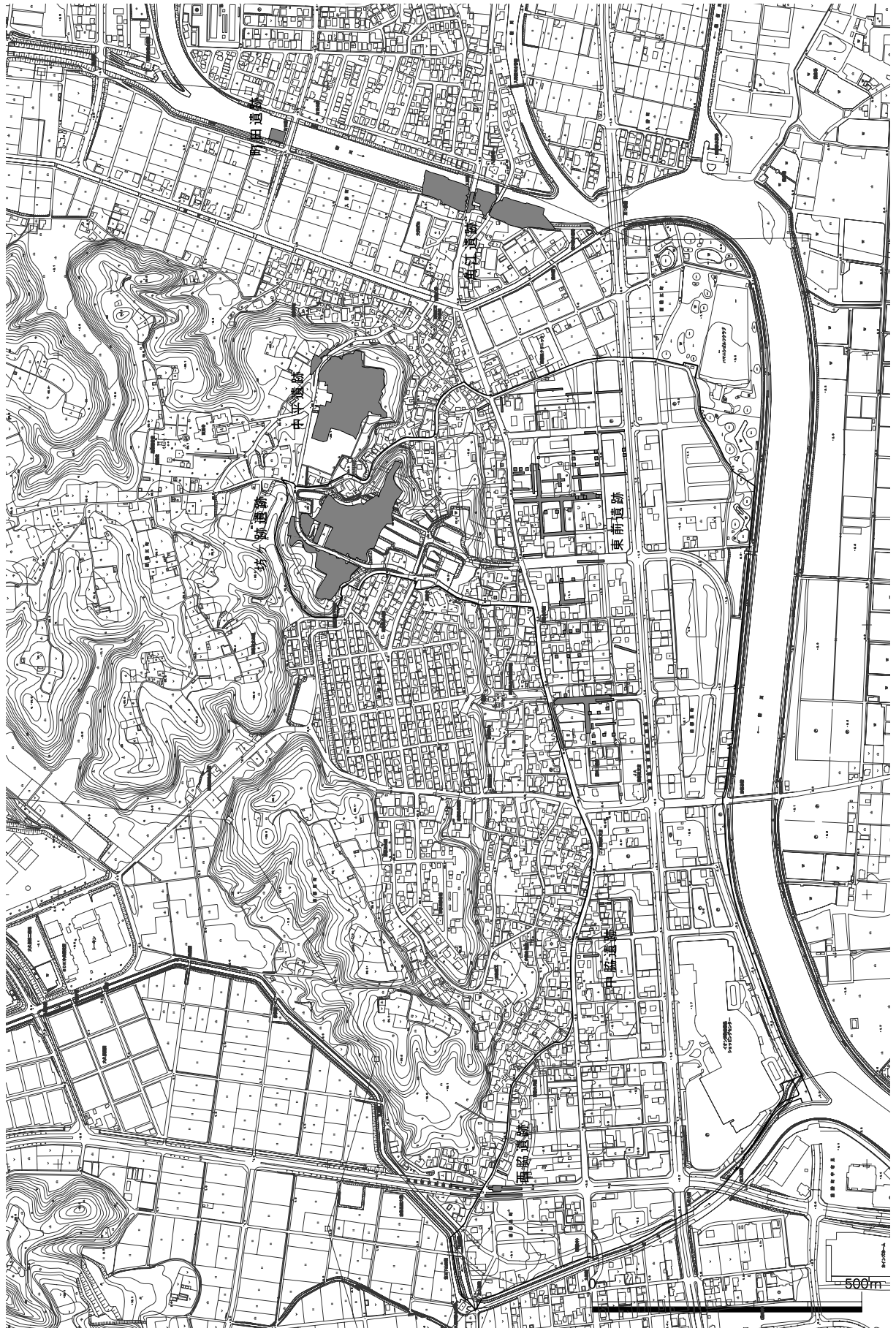
**弥生・古墳移行期** 台地上には西から坊ヶ跡遺跡、中平遺跡、大平遺跡があり、多くの竪穴住居跡群や掘立柱建物跡、いくつかの方形周溝墓が検出されている。また、平野部の鹿小路遺跡や西脇遺跡でも土器が確認されている。

**古墳時代** 中期から後期にかけて伊場遺跡、中薄遺跡、八反田遺跡が知られる。一方、古墳は、中期には台地端の丘陵上につくられ、大型円墳の入野古墳や、佐鳴湖北側の狐塚古墳、妙法塚古墳があげられる。後期になると富塚周辺や雄踏町に分布し、終末期には台地の縁辺部に多くの群集墳がつくられた。

**奈良・平安時代** 律令国家の成立とともに、地方行政制度が整えられ、西鴨江・志都呂は遠江国敷智郡に属した。伊場遺跡群からは木簡や墨書土器などの文字資料が大量に得られ、遺跡群内に敷智郡衙が存在したことが想像される。当時の集落としては、佐鳴湖東岸の又七遺跡、西岸の村前山遺跡が知られている。

**鎌倉・室町時代** 荘園が展開され、14世紀には浜松荘内に西鴨江村の名が見られる。角江遺跡では、水田や井戸、雄踏街道の前身と思われる道状遺構が検出された。前山遺跡では、鎌倉時代の溝で囲まれた集落が報告されている。

**江戸時代以降** 西鴨江・志都呂は稲作を主、畑作を従とする農村で、洪水などの自然災害にたびたび悩まされていた。台地上は畑や墓所に利用され、居住する土地ではなくなっていき、坊ヶ跡・中平遺跡からは地境と思われる溝が多数検出されている。



第2図 区画整理用地内遺跡分布図



第3图 发掘调查区位置图

## 2 調査に至る経緯

約25年前、西鴨江町・志都呂町で土地区画整理事業の計画がもち上がった。1983年に事業計画用地内の遺跡分布調査を実施し、東前遺跡の存在を確認した。その後、西鴨江町・志都呂町内の台地上から低地の水田地帯約75.3haを対象とする土地区画整理事業計画が進展し、事業用地内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議が進められた。そして、坊ヶ跡遺跡、東前遺跡、中脇遺跡、西脇遺跡の範囲確認調査を実施した上で、事業で消滅する部分については記録保存のための事前調査を実施する方向で調整が進められた。

坊ヶ跡遺跡では、対象面積23,900㎡の範囲に11箇所の特レンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。その結果、遺跡の範囲は対象地全域に及ぶことが確認され、2001年9月から2002年12月にかけて現地調査（1次調査）を実施した。対象地面積23,900㎡のうち、約23,000㎡について現地調査を完了したが、約900㎡は調査が実施できず、懸案として残った。1次調査では、縄文時代後期から江戸時代に至るまでの遺構遺物が大量に検出されたが、特に弥生・古墳移行期において、竪穴住居跡120軒以上、掘立柱建物跡50棟以上、方形周溝墓4基など多数の遺構が確認された。そして、同じ台地の東隣りに展開する中平遺跡と合わせ、大規模な集落が広がっていたことが明らかになった。

今回、懸案だった未調査区域2箇所（A・B区）の造成が計画されたため、攪乱の事実があるA区について2007年8月9日に試掘調査を実施した。対象地は深さ70～80cmにわたり、大きく攪乱され遺構は残存していなかったが、前回調査との接続地にあたる縁辺部分には、「コ」の字型に遺物包含層が残存していることが判明した。試掘調査の結果をふまえ、A区の縁辺部とB区について発掘調査を実施することが決定された。発掘調査は、(財)浜松市文化振興財団が受託し、浜松市教育委員会（浜松市生涯学習課文化財担当が補助執行）が調査指導にあたった。発掘調査は2008年1月に実施した。調査面積は607㎡である。

## 3 調査経過

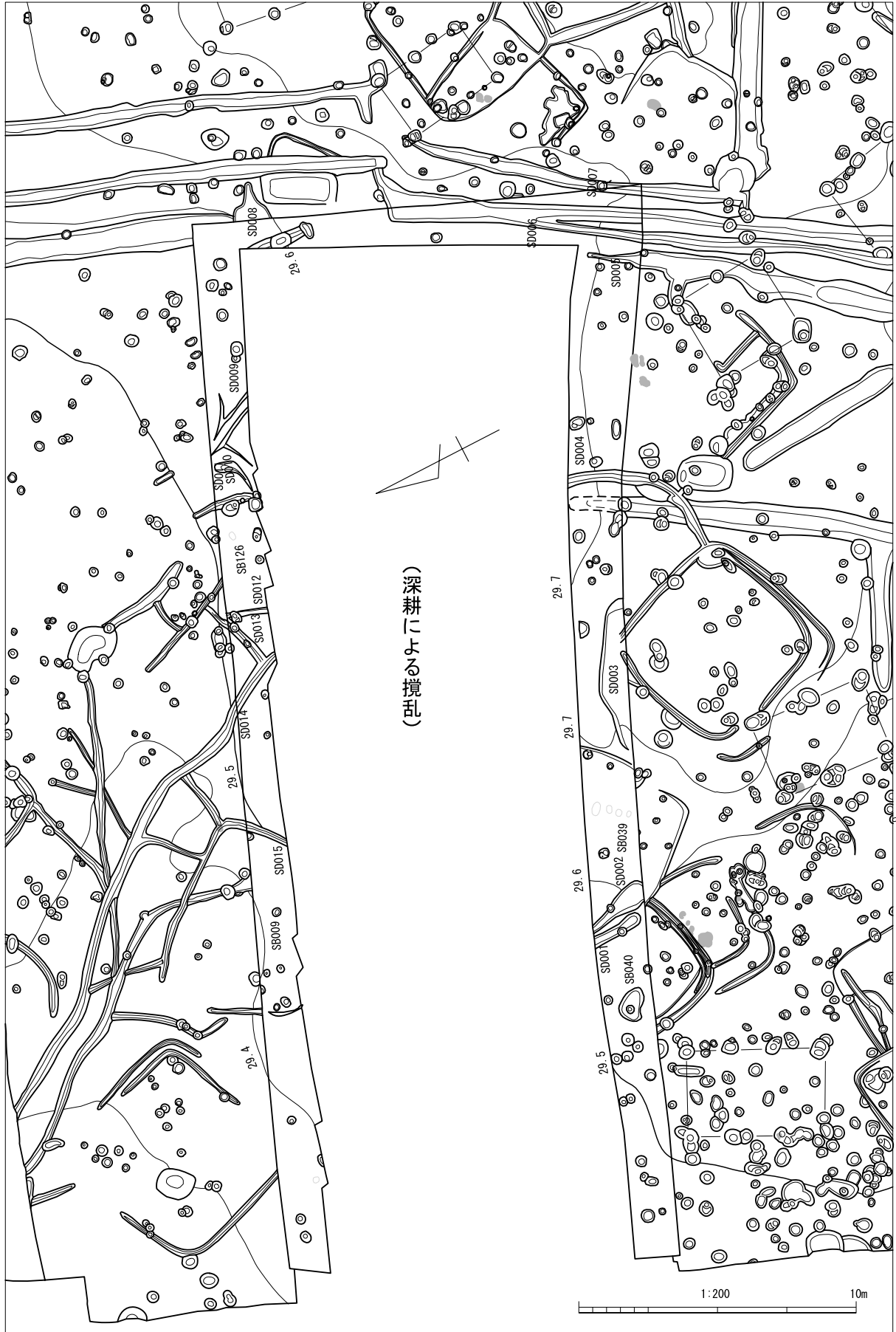
**調査区の設定** 調査区は1次調査区内北寄りにあたり、2箇所に分かれていることから、南側調査区をA区、北側調査区をB区とする。なお、測量にあたり、座標は西都土地区画整理事業（仮換地用）日本測地系を既知点とした。

**遺存状況** A区においては、幅約2mのコの字型に地山面まで掘削し、遺構検出に努めた。地山層上面までの深さは比較的浅く、表土の堆積は30～40cm程度であった。調査区の幅が狭く、全般的に遺存状態が悪いこともあり、遺構の関連性を理解するのに苦労した。一方、B区においては、既に遺物包含層は完全に削られ、山砂に入れ替えられていたため、攪乱穴が見つかっただけで、全く遺構や遺物を確認することはできなかった。

### 調査経過 <2008年1月>

9日（水） コンテナハウスと簡易トイレを設置し、発掘機材を搬入する。

10日（木） 重機による表土除去工事、A区ならびにB区西半分を終了する。A区の遺構検出を行い、南北両側で竪穴住居の壁溝・炉跡や多くの小穴、東側で中近世の溝を確認、南西側から遺構精査と並行して平面図の作成に取り掛かる。壁溝や排水溝、小穴内から古式土師器片が出土した。測量業者により、水準点と基準点の設置作業が行われた。発掘前現況写真を撮影する。



(深井耕田) (田)

第4図 調査区 (A区) 全体図





第5図 調査区B区全体図

11日（金） 前日に引き続き、重機による表土除去工事、残りのB区東半分を行い、完了する。A区東・北側の遺構精査を実施、北側の遺構からは古墳時代前期の土師器片が多数出土した。円形貼付文壺や二重口縁壺が含まれる。

A区南側・東側の全体写真を撮影する。トータルステーションを用い、南側と東側の平面図を作成する。

15日（火） B区の遺構検出を行うが、遺構包含層は完全に削り取られていた。

A区北側の全体写真ならびに、遺構写真を撮影する。A区北側の平面図を作成する。

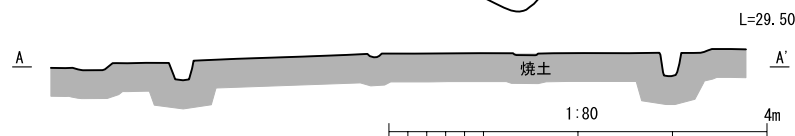
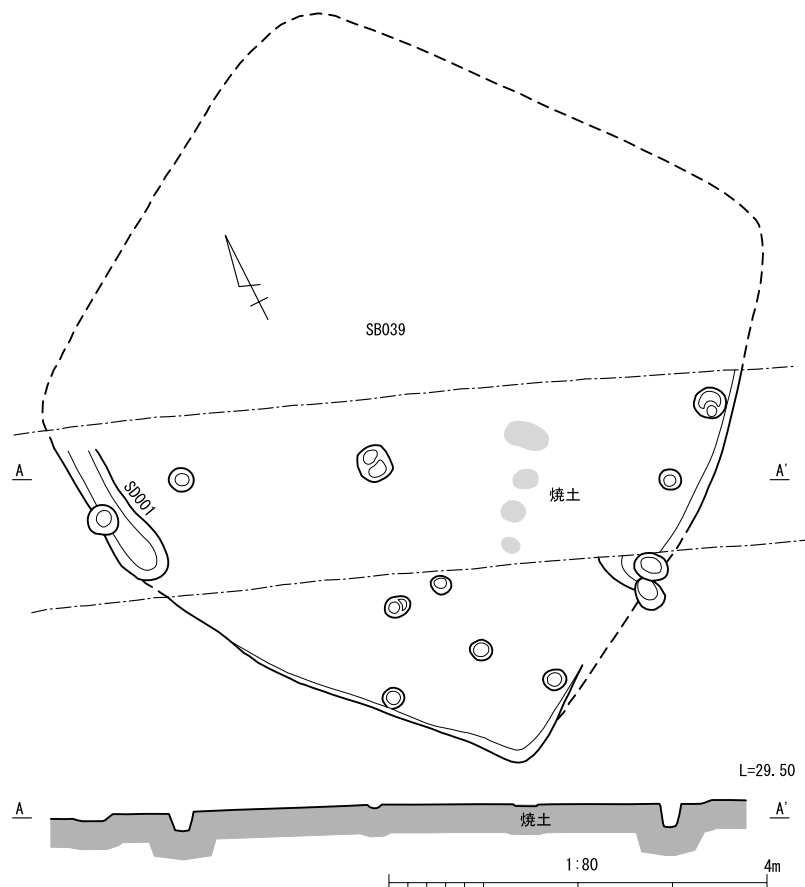
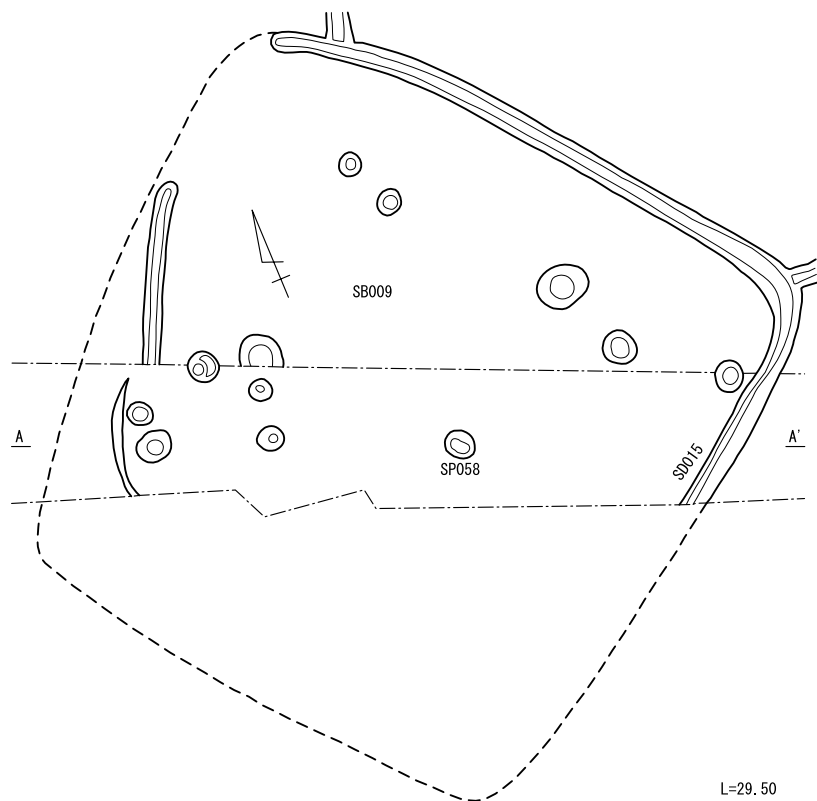
16日（水） B区の全体写真を撮影し、平面図を作成する。1次調査と接続するA区について、1次調査との整合性を確認しながら補足調査を行う。

17日（木） 出土遺物と発掘機材を神原町埋蔵文化財調査事務所へ撤収した。

25日（金） 現地のコンテナハウス、トイレ等を撤去した。

#### 4 検出遺構

**検出遺構の概要**（第4図・第5図） 検出した遺構はすべてA区内で、竪穴住居跡4軒、溝15条、土坑1基、小穴67基である。そのうち遺物を伴う遺構は、竪穴住居跡3軒、溝8条、土坑1基、小穴18基であった。竪穴住居跡のうち、3軒は1次調査で部分的に検出された竪穴住居跡に接続するもので、残りの1軒は新たに検出されたものである。したがって、竪穴住居跡Noは1次調査と対応させて表す。いずれの竪穴住居跡も柱穴を確認するにはいたらなかったが、SB39とSB126では炉跡を検出した。溝については、竪穴住居跡の壁溝もしくは排水溝と考えられるものが多い。ただし、東側の溝（SD6・7）は、1次調査の

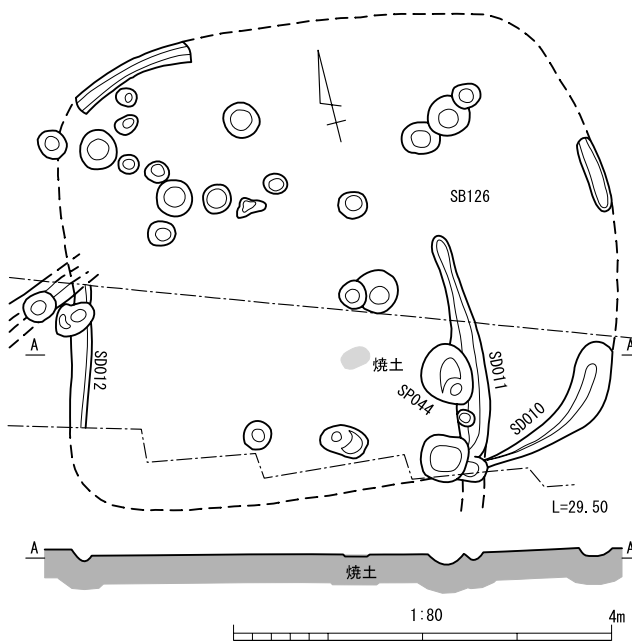
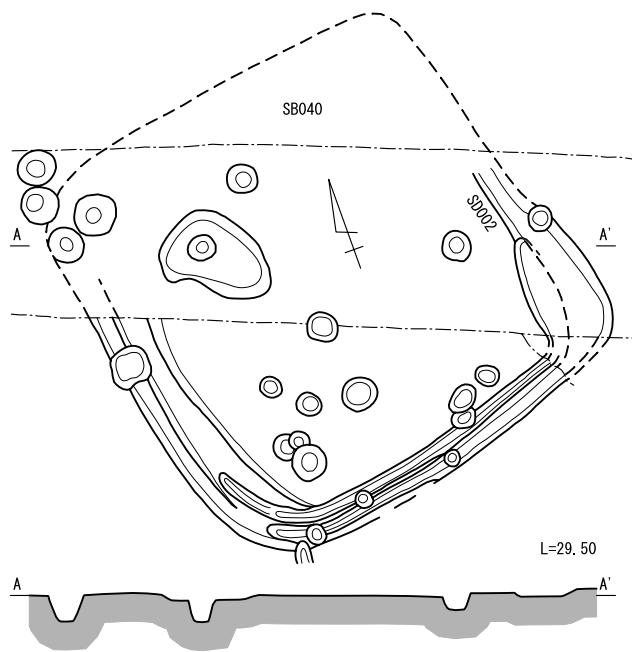


第6図 SB09・39実測図

SD95・96に接続することから、鎌倉時代の区画溝で畑地を区画する溝、あるいは道路に関連した溝と考えられるが、遺物は出土しなかった。小穴については南西部分に集中していたが、関連性は分からなかった。未確認の掘立柱建物跡があるのかもしれない。B区については、遺物包含層は完全に削り取られ、山砂に入れ替えられていたため、遺構や遺物は全く確認できなかった。

**SB09** (第6図) 遺存状態が悪く、柱穴や炉跡は確認できない。SD15が1次調査で確認された東辺の壁溝に接続することが確認された。西側には、1次調査で確認された壁溝にならうように、方向が一致しない掘り方が見付き、重複する別の竪穴住居跡があった可能性が高まった。SB09からは1~6 (台付甕、高坏、壺、甕)、範囲内の小穴 (58) からは24の遺物が出土した。また、SB09の西側約6mの辺りに炉跡が確認され、竪穴住居跡が存在したと考えられるが、その他の痕跡を確認するには至らなかった。

**SB39** (第6図) 1次調査では南角付近の掘り方を確認するにとどまったが、今調査で東側の掘り方と西側の壁溝 (SD01) の一部を検出した。さらに、貼り床と



第7図 SB40・126実測図

番号	区	規模		面積	備考
		東西	南北		
SB09	A区	6.7	—	—	柱穴なし
SB39	A区	—	—	—	柱穴なし
SB40	A区	4.8	—	—	柱穴なし
SB126	A区	5.8	5.0	29.0	柱穴なし

第1表 竪穴住居

その他の遺構 上記の遺構以外に遺物の出土した溝 (SD)、土坑 (SK)、小穴 (SP) を検出している。その中で図示できる遺物が出土した遺構にはSD09 (12:高坏坏部, 13:小型丸底壺) SD13 (15:円形貼付文壺) がある。

南北方向4箇所分散した焼土が検出され、SB39の存在は明確になった。SB40と一部重複しているが、切り合い関係からSB40が先行していると判断できる。SB39からは、台付甕台部 (8) 小型壺口縁部 (9) が出土している。

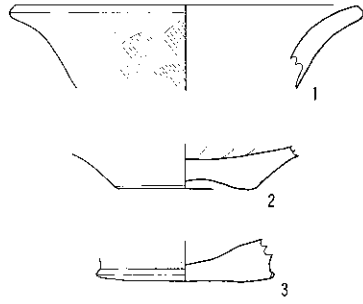
**SB40 (第7図)** 耕作が深くまで及んでおり遺存状態が悪い。東側で壁溝の一部と思われる溝 (SD02) を確認できたが、1次調査で見ついている西側壁溝の続きを確認することはできなかった。SB40は東西長4.8mの規模である。また、床面には小穴が数多く確認できたが、柱穴に結び付くと思われるものはなかった。SB40と範囲内の遺構から遺物は出土していない。

**SB126 (第7図)** 1次調査では確認されなかった竪穴住居跡である。西側の壁溝 (SD12) と南東角の壁溝と思われる溝 (SD10) を確認した。さらに、中央南寄りに炉跡を検出した。部分的に確認された壁溝からかろうじて東西長5.8m、南北長5.0mの規模であることが推測される。ただし、東西に扁平であることから西側壁溝と平行な溝 (SD11) が東側壁溝として対応する可能性や、SD11にともなう重複する別の竪穴住居跡が存在する可能性が考えられる。SB126からは7 (二重口縁壺)、範囲内のSD10からは14 (高坏脚部)、SP44

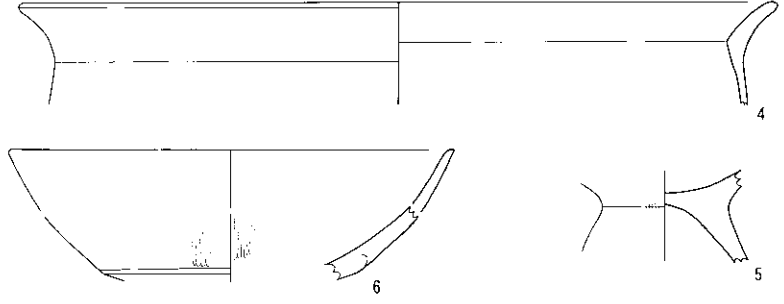
からは23 (甕口縁部) が出土している。

**SD04・14** SD04は、1次調査のSD84に接続し、SD14は1次調査のSD22に接続することが確認できた。これらの溝は、方向や傾斜を考えると、南から北へ流れる排水溝としてつながる可能性が高いと思われる。SD04からは10 (高坏坏部) 11 (たたき甕)、SD14からは17~22 (台付甕、高坏、小型壺等) が出土している。

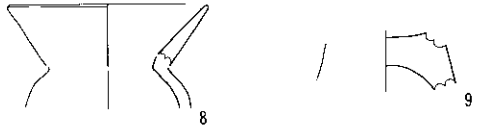
SB09



刻目の有無不明



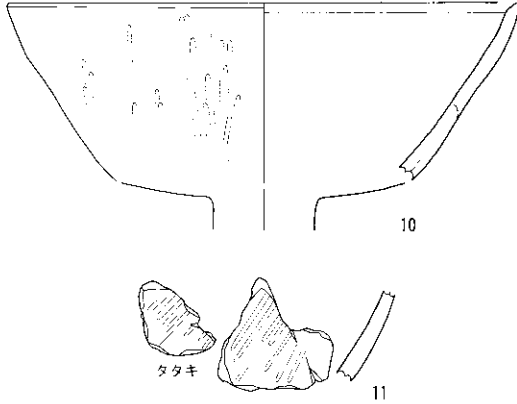
SB39



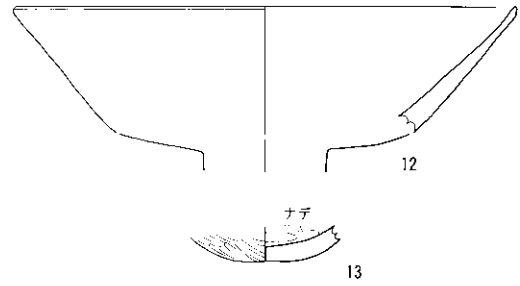
SB03



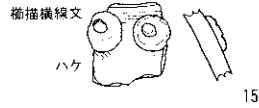
SD04



SD09



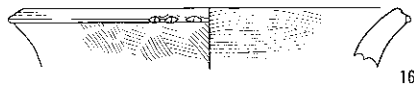
SD13



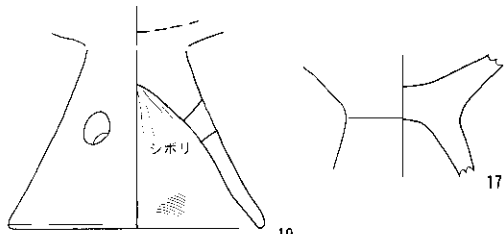
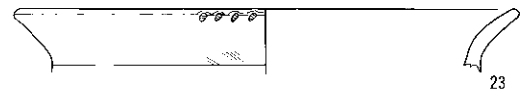
SD10



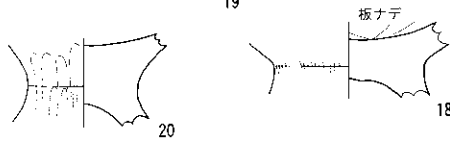
SD14



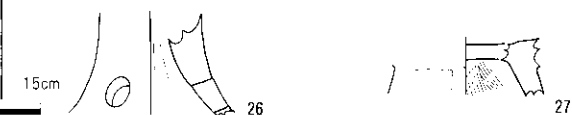
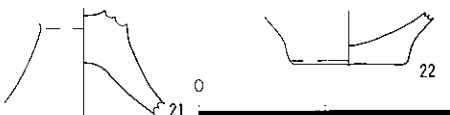
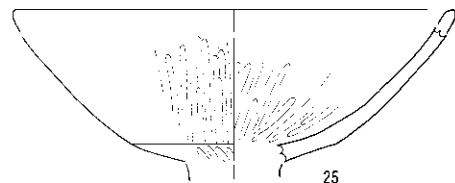
SP44



SP58



北東部他



15cm

第8図 出土遺物実測図

## 5 出土遺物（第8図）

出土遺物は、すべて古式土師器である。

1～6は、SB09から出土した遺物である。1は壺口縁部、2,3は壺底部、4は大型甕口縁部、5は台付甕台部、6は高坏坏部である。

7は、SB126から出土した遺物で、二重口縁壺口縁部である。

8,9は、SB39から出土した遺物である。8は小型壺口縁部、9は台付甕台部である。

10,11は、SD04からの出土遺物である。10は高坏坏部（元屋敷型）、11はたたき甕胴部である。

12,13は、SD09からの出土遺物である。12は高坏坏部、13は小型丸底壺底部である。

14は、SD10からの出土遺物で、高坏脚部である。

15は、SD13からの出土遺物で、円形貼付文壺である。

16～22は、SD14からの出土遺物で、16は甕口縁部、17～21は台付甕台部、22は小型壺底部である。

23は、SP44からの出土遺物で、甕口縁部である。

24は、SP58からの出土遺物で、壺底部である。

25,27は、A区北東部内側角の遺構面上面からの出土遺物である。25は高坏坏部、27は台付甕台部である。

26は、排土中から見つかった遺物で、高坏脚部である。

## 6 まとめ

1次調査で実施できなかった約900㎡の内、83%に当たる約750㎡（深耕による攪乱が確認され、調査をしなかった約300㎡を含む。）が攪乱され、遺構や遺物包含層が残っていなかったのは非常に残念である。残りの約150㎡についても、調査区の幅が狭く、遺構の遺存状態が悪かったため、検出した遺構の性格を理解するのに苦労した。しかし、1次調査の記録を手掛かりに出土遺構を検討したところ、概ね整合性のとれる検出状況であり、調査区は弥生・古墳移行期を中心とした集落の一角であることが確認できた。

竪穴住居跡については、1次調査と接続するべき遺構が検出できない部分もあったが、明確になっていなかった4軒の竪穴住居跡が明らかになったことは、大きな成果だったといえる。4軒の竪穴住居跡は、本遺跡では一般的な形態で、しかも平均的な規模である。坊ヶ跡遺跡で確認された竪穴住居跡は、全部で131軒（内、弥生・古墳移行期126軒）になった。

今回の調査で、西都土地区画整理事業に伴う坊ヶ跡遺跡の発掘調査はすべて終了したが、同時代の集落は、中平遺跡の北側にも大きく広がっており、集落域の全貌は明らかになってはいないことから、今後の調査にも期待される。

## 参考文献

（財）浜松市文化協会 2004『坊ヶ跡遺跡』

番号	取上 番号	区	遺構 層位	種別	細別	残存率	器径	器高	口径	色調	胎土	焼成	その他	
1	29	A区	SB09	古式土師器	壺	口縁	20			14.0	にぶい橙色	やや粗(小石混)	やや不良	
2	29	A区	SB09	古式土師器	壺	底部	70				にぶい橙色	やや粗(砂混)	やや不良	底径5.4
3	29	A区	SB09	古式土師器	壺	底部	40				明赤褐色	密	良	底径7.0
4	29	A区	SB09	古式土師器	大型甕	口縁	20			30.0	明赤褐色	粗(小石混)	不良	
5	29	A区	SB09	古式土師器	台付甕	台部	80				にぶい橙色	粗(小石混)	やや不良	接合部径5.0
6	29	A区	SB09	古式土師器	高坏	坏部	20				にぶい橙色	密	良	
7	28	A区	SB126	古式土師器	壺	口縁	10			20.0	灰白色	密	良	二重口縁
8	15	A区	SB39	古式土師器	小型壺	口縁	20			8.0	にぶい橙色	密	やや不良	
9	15	A区	SB39	古式土師器	台付甕	台部	50				明赤褐色	やや粗(小石混)	不良	
10	14	A区	SD04	古式土師器	高坏	坏部	20			22.0	にぶい黄橙色	やや粗(小石混)	やや不良	元屋敷型
11	14	A区	SD04	古式土師器	甕	胴部					灰黄褐色	密(小石混)	不良	タタキ甕
12	23	A区	SD09	古式土師器	高坏	坏部	20			20.0	明赤褐色	密	やや不良	
13	23	A区	SD09	古式土師器	小型壺	底部	70				明褐色	密	良	
14	24	A区	SD10	古式土師器	高坏	脚部	20				にぶい橙色	密	やや不良	
15	25	A区	SD13	古式土師器	壺						にぶい橙色	密	やや不良	円形貼付紋
16	26	A区	SD14	古式土師器	甕	口縁	10			16.0	にぶい褐色	やや粗	良	
17	26	A区	SD14	古式土師器	台付甕	台部	40				にぶい橙色	粗(小石混)	不良	接合部径4.5
18	26	A区	SD14	古式土師器	台付甕	台部	30				明赤褐色	密	良	接合部径5.9
19	26	A区	SD14	古式土師器	台付甕	台部	70				明黄褐色	粗(小石混)	やや不良	底径10.1
20	26	A区	SD14	古式土師器	台付甕	台部	90				にぶい橙色	やや粗(砂混)	やや不良	接合部径4.3
21	26	A区	SD14	古式土師器	台付甕	台部	50				赤橙色	密	やや不良	接合部径3.4
22	26	A区	SD14	古式土師器	小型壺	底部	40				にぶい橙色	密		底径4.7
23	19	A区	SP44	古式土師器	甕	口縁	10			20.0	暗褐色	粗(砂混)	やや不良	
24	32	A区	SP58	古式土師器	壺	底部	40				にぶい橙色	密	良	底径7.3
25	02	A区	北東角	古式土師器	高坏	坏部	30				明赤褐色	密	良	
26	35	A区	排土中	古式土師器	高坏	脚部	30				明赤褐色	密	やや不良	
27	02	A区	北東角	古式土師器	台付甕	台部	20				橙色	密	良	接合部径5.6

第2表 出土遺物観察表

図版 1



1 発掘完了A区北側（北西から）



2 発掘完了A区南側（南東から）

図版 2



1 発掘完了A区東側（南西から）



2 発掘完了B区全景（北西から）



図版 3

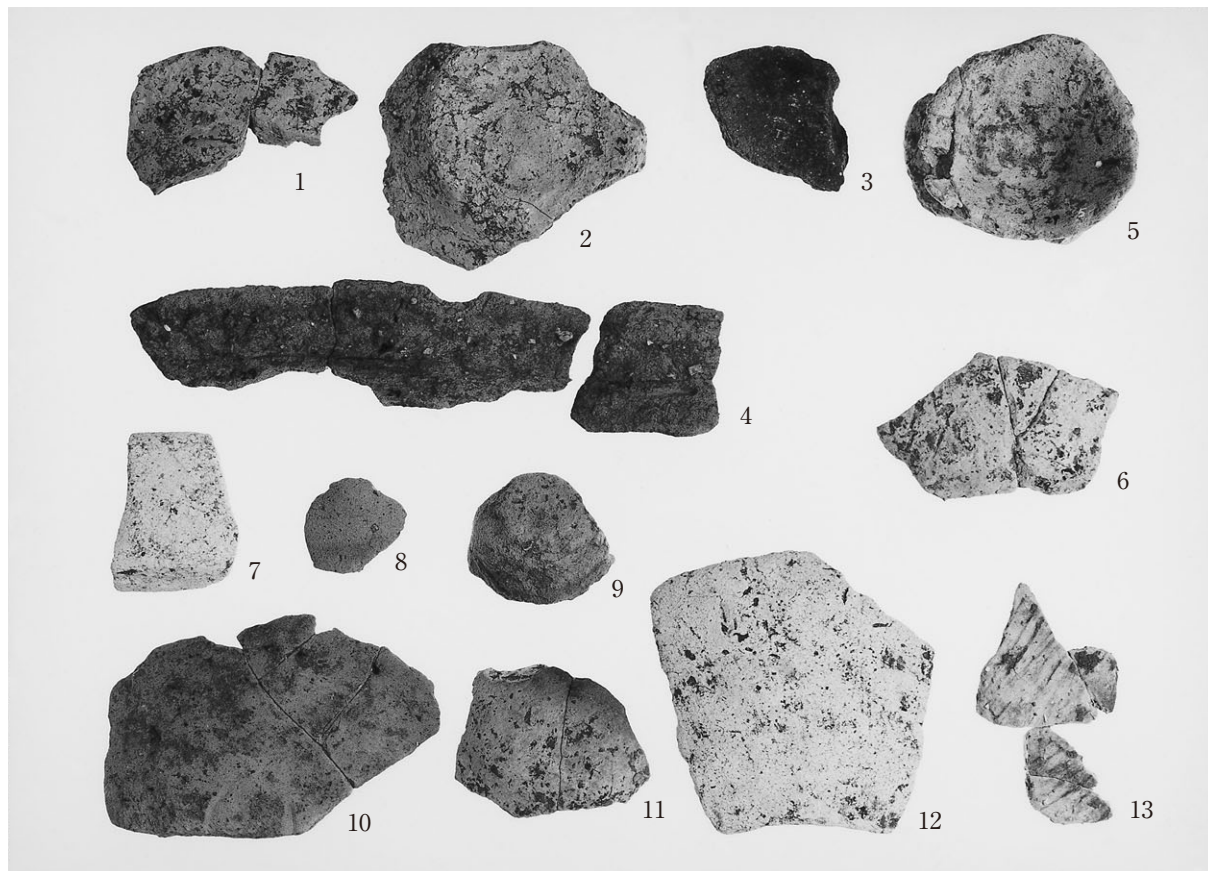


1 SB39 (西から)

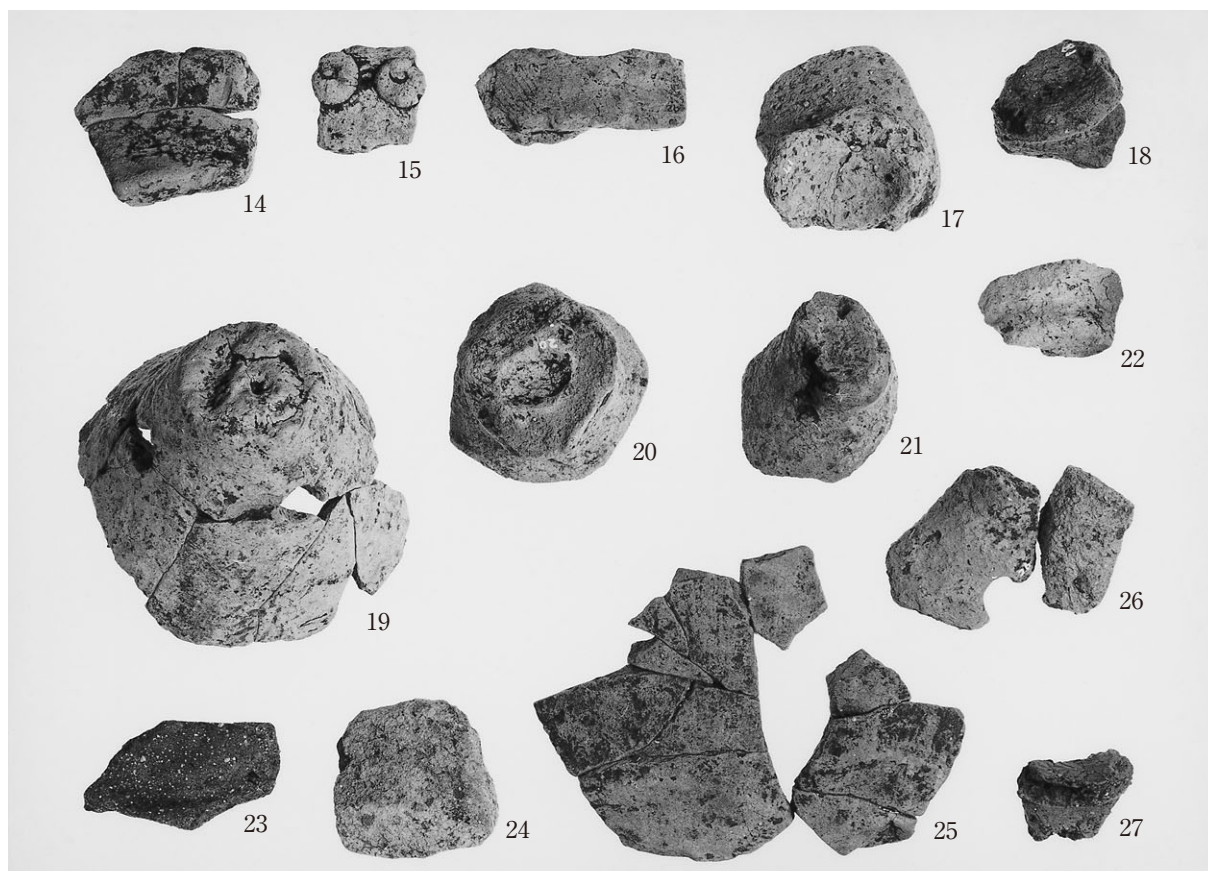


2 SB126 (北西から)

図版 4



1 出土遺物



2 出土遺物

# 報告書抄録

書名 (ふりがな)	坊ヶ跡遺跡2次 (ほうがいといせき2じ)							
編著者名	安藤 憲							
編集機関	浜松市教育委員会 〒430-0929 浜松市中区中央1-2-1 イーステージ浜松オフィス棟 浜松市生活文化部生涯学習課文化財担当 (浜松市教育委員会の補助執行機関) 〒430-0946 浜松市中区元城町103-2 TEL (053) 457-2466 FAX (053) 457-2563							
発行機関	財団法人 浜松市文化振興財団 〒430-7790 浜松市中区板屋町111番地の1 TEL (053) 451-1151 FAX (053) 451-1123							
発行年月日	2008年12月25日							
ふりがな 遺跡名	所在地	コード		北緯 。'〃	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほうがいと 坊ヶ跡遺跡	静岡県 浜松市西区 西鴨江町	22202	3-05-40	34° 42' 13"	137° 39' 40"	2008年 1月10日 ～25日	706 ㎡	土地区画 整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
坊ヶ跡遺跡	集落	古墳時代前期	竪穴住居跡	古式土師器	古墳時代前期(前半)の 大規模集落			

## 坊ヶ跡遺跡2次

2008年12月25日発行

---

編集機関 浜松市教育委員会  
 (浜松市生涯学習課文化財担当)  
 発行機関 財団法人 浜松市文化振興財団  
 印刷 中部印刷株式会社

---